（学年）１学年、（教科・科目）外国語・英語コミュニケーションⅠ　　個別学習

（単元）Lesson 2　When do you feel happy?

（本時のねらい）

自分が好きなことについて英語を用いて表現し、他の生徒の前で発表したり、他の生徒の発表を聞いて、理解したり質問したりする。

（ICT 活用方法）

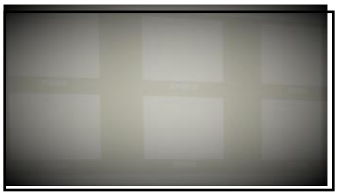
英文の作り方を説明するために、ICT を用いて例文のドリル練習をする。従来は時間をかけてフラッシュカード（紙）を作成し、一枚一枚めくって練習していたが、ICT を用いてプレゼンテーションソフトでパターン化することによってより多くの生徒の注目を前に集めることができ、画面の大きさもあるため生徒も見やすく、また、教材によってはネイティヴの音声も貼り付けられるので、非常に有効であると考えられる。多くの例に慣れることで具体的にどうすると英文が作れるのかわかりやすくなり、その後の生徒の活動が飛躍的にスムーズになる。その後、授業支援クラウドアプリを使って各自で一人一台端末で英作するので、生徒個別の進度が授業者に一目で分かったり、サポートに入りやすくなったり、あるいは誰から発表を始めたら良いかヒントにすることができる。生徒は、発表時に自分のワークシートを見てうつむいて発表するのではなく、電子黒板を見ながら良い姿勢で発表できるため、声も出しやすく、またアイコンタクトも取りやすい。聞く立場の生徒にとっては、リスニング力の低い生徒にとっては特に、前に映し出された英文を見ることが理解の補助となり、生徒の理解力、ひいてはその後の生徒からの質問の量や質にも影響があると考える。また、生徒にとっては、他の生徒の努力を見て確認できるので、インセンティヴにもなる。

（本時の展開）

時間	学習活動	指導事項	ＩＣＴ活用方法
導入 ５分	・生徒は前の電子黒板を見て、教員の後に続いてフレーズ練習する。	・生徒が全員前を向いて声を出しているか常に生徒の様子を観察する。	・生徒が見やすい位置に電子黒板をセッティングする。 ・生徒の習熟度や注目の様子によって、前後を繰り返す。
展開 ３０分	・授業支援クラウドアプリに配布されているシートに自分が好んですることについて、チェックを入れる。 ・一文で表現する。	・一人一台端末の起動確認をする。 ・生徒の音読支援をして理解を促す。 ・生徒に簡単な例を示して支援する。	・授業支援クラウドアプリに配布してある資料を用いて、一人一台端末で入力させる。 ・一人一台端末に入力する字の大きさを調整する。

	・一つのまとまりのある文章を書く。 ・クラスに向けて発表する。	・英作文の流れを確認する。 ・できた生徒から音読させて、発表の準備をさせる。 ・発表例を示す。	・一人一台端末の画面を切り替えて、辞書機能を使えるようサポートする。 ・全員の生徒のスクリプトを授業支援クラウドアプリを使って前の電子黒板に投影することで発表者の姿勢をよくしたり、他の生徒の理解を助けたりする。 ・発表を始める生徒のスクリプトを電子黒板に大きく映し出し、生徒全体に見えるようにする。
まとめ ５分	・発表へのフィードバックとまとめ	・この時間で何を達成したか、確認して授業を終える。	・特定の生徒の発表を振り返るときに、その生徒のスクリプトを再度電子黒板に映し出す。

（授業の様子）



教材投影方法

板書とＩＣＴ

TOOL BOX
relaxed(リラックスした) / excited / thrilled(わくわくした)
am drawing a picture of my pet / win a game / am singing with my favorite band at their concert(コンサートで好きなバンドといっしょに歌う) / can take some nice pictures

p.33 Step 3 例にならって発表しよう。

(1) I often ……
(2) I feel ……
Why don't you ……?

Step 4
メモを取りながら発表を聞き，気になったことをあとで質問したり，感想を伝え合ったりしよう。
質問例
How often do you do it?
Where do you do it?
When did you start it?

使用したワークシート

（生徒の反応と課題、改善を要する点）

英語の場合、一斉にフレーズ練習や音読練習をする場面など、声を出して演習することが多いが、前の電子黒板を見ながら姿勢良く発話することによって、英語に必要とされる腹式呼吸がしやすくなり、声を出しやすくなる利点が考えられる。授業の帯活動のようにこれからもできるだけ実施したい。

シートへの記入については、一人一台端末を使うと手間取る場合もあるので、紙媒体を適宜併用したい。しかし授業支援クラウドアプリを使って入力したものは、紙と違ってなくしたりしないので、復習に便利だったり、他の生徒のパフォーマンスとの比較がしやすいなどの利点が考えられる。